

2021年8月12日 全8頁

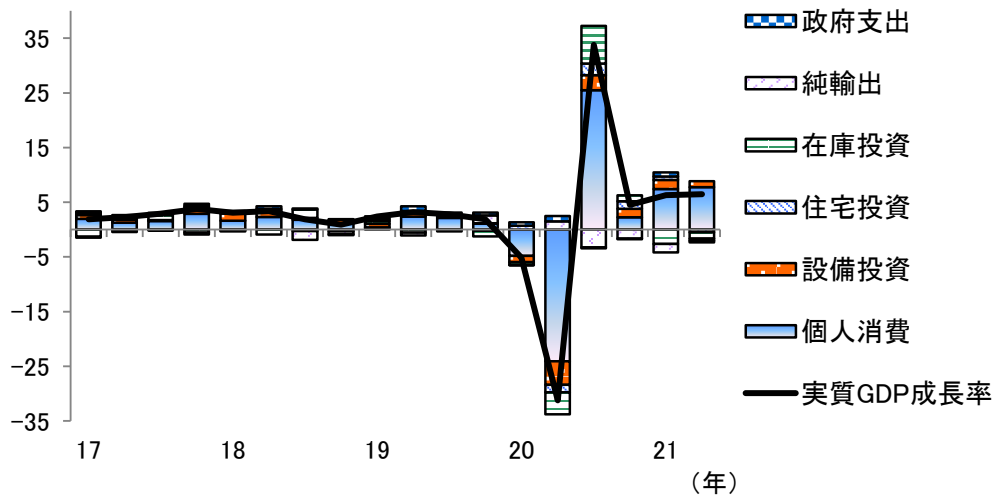
# アメリカ経済グラフポケット (2021年8月号)

2021年8月10日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美  
研究員 矢作 大祐

## 実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



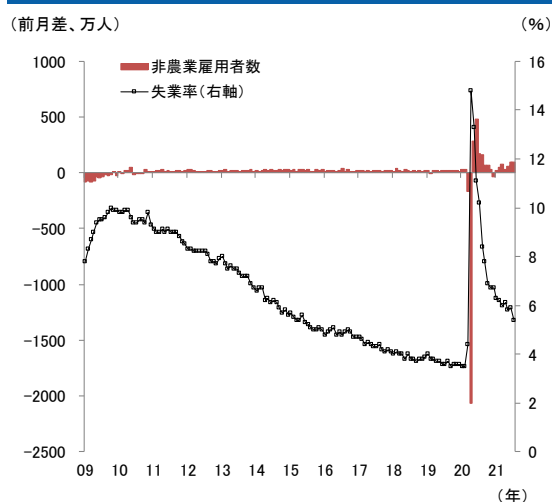
(前期比年率、%、%pt)	2019		2020				2021	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	2.8	1.9	-5.1	-31.2	33.8	4.5	6.3	6.5
個人消費	3.2	1.7	-6.9	-33.4	41.4	3.4	11.4	11.8
設備投資	2.9	-1.7	-8.1	-30.3	18.7	12.5	12.9	8.0
住宅投資	3.6	1.1	20.4	-30.7	59.9	34.4	13.3	-9.8
政府支出	2.1	3.0	3.7	3.9	-2.1	-0.5	4.2	-1.5
輸出	-0.8	1.2	-16.3	-59.9	54.5	22.5	-2.9	6.0
輸入	-1.1	-8.5	-13.1	-53.1	89.2	31.3	9.3	7.8
寄与度								
個人消費	2.1	1.1	-4.8	-24.1	25.5	2.3	7.4	7.8
設備投資	0.4	-0.2	-1.1	-4.3	2.7	1.6	1.7	1.1
住宅投資	0.1	0.0	0.7	-1.4	2.2	1.3	0.6	-0.5
在庫投資	-0.3	-1.0	-0.5	-4.0	6.8	1.1	-2.6	-1.1
政府支出	0.4	0.5	0.6	1.0	-0.2	-0.1	0.8	-0.3
輸出	-0.1	0.2	-2.0	-8.3	4.6	2.1	-0.3	0.6
輸入	0.2	1.3	1.9	9.9	-7.9	-3.7	-1.3	-1.1

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

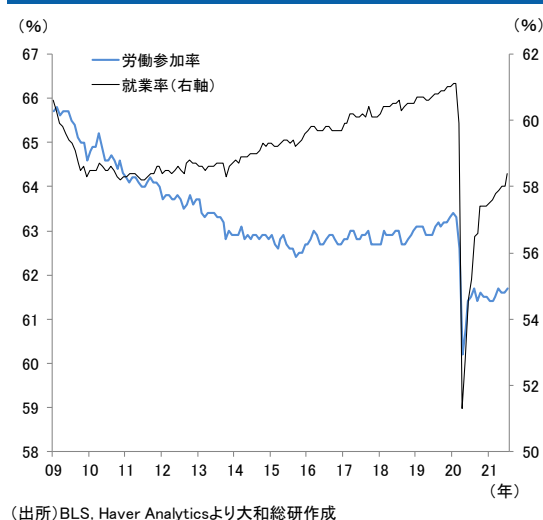
## 雇用環境<sup>1</sup>

- ◆ 7月の失業率は5.4%となり、前月から0.5%pt低下した。企業の労働需要が高水準で推移する中、失業保険の給付増額を期限前に終了した州を中心に労働供給が増加したことが影響したものと考えられ、2ヵ月ぶりに改善した。
- ◆ 7月の非農業部門雇用者数の前月差は94.3万人増となった。サービス部門における雇用者数の増加ペースの加速が押し上げ要因となり、3ヵ月連続で伸びが加速し、2020年8月以来の高い伸びとなった。
- ◆ 非農業部門雇用者数の前月差の6ヵ月平均は68.1万人増となった。

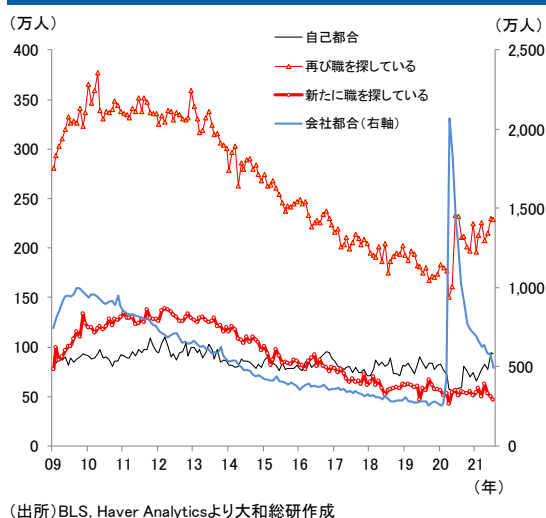
### 非農業雇用者数と失業率



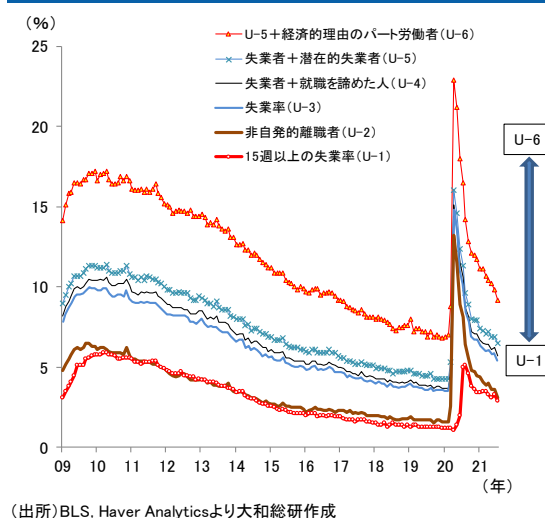
### 労働参加率と就業率



### 理由別失業者数



### 定義別失業率



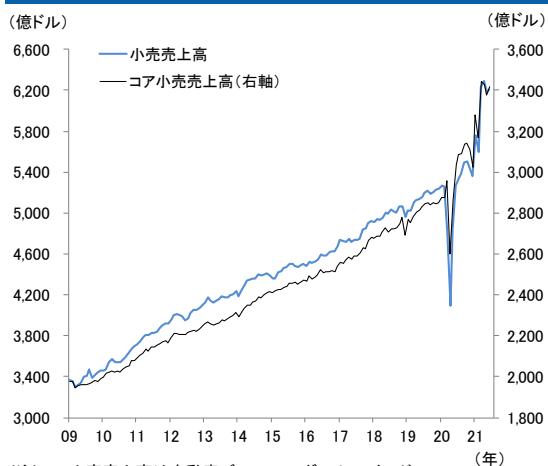
<sup>1</sup> 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「雇用者数、失業率ともに市場予想を上回る」(2021年8月10日)参照。

[https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210810\\_022446.html](https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210810_022446.html)

## 個人消費

- ◆ 6月の小売売上高は前月比0.6%増となった。消費がモノから制限されていたサービスセクターへとシフトしている一方で、家電や衣料品などの売上が伸び、増加に転じた。コア小売売上高は同1.1%増となり、3ヵ月ぶりの増加となった。
- ◆ 7月の自動車販売台数は前月比4.5%減少し、年率換算で1,473万台となった。需要は高水準だが、半導体不足などに起因した生産遅延による在庫不足や、それに伴う価格の上昇が販売に影響し、3ヵ月連続で減少した。
- ◆ 7月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の85.5から81.2に低下した。住宅や自動車などの価格の上昇でインフレ懸念が高まったことなどが押し下げ要因となり、前月から低下に転じ、2021年2月以来の低水準となった。

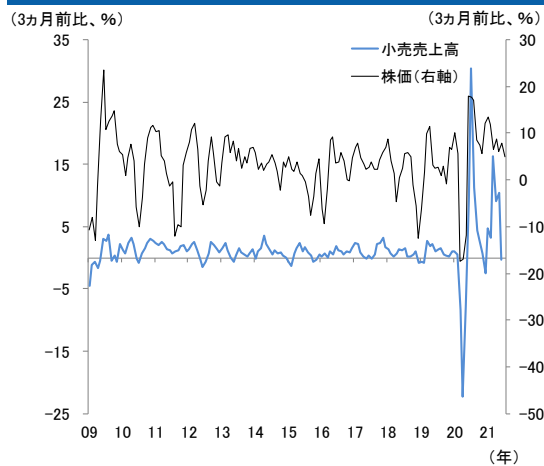
### 小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。

(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

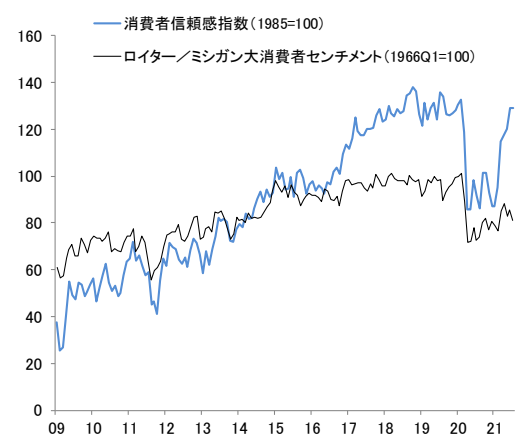
### 消費と株価



(注) 株価はWilshire5000。

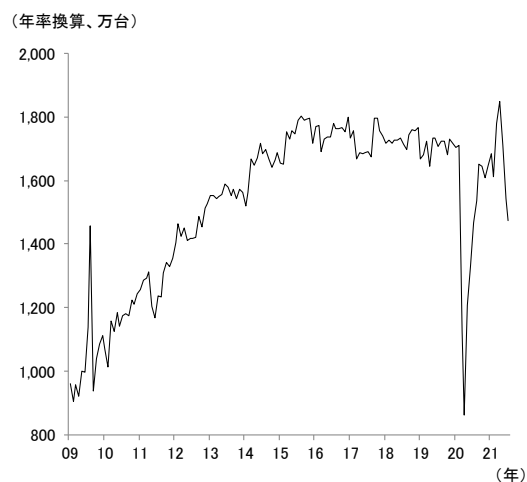
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

### 消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

### 自動車販売台数

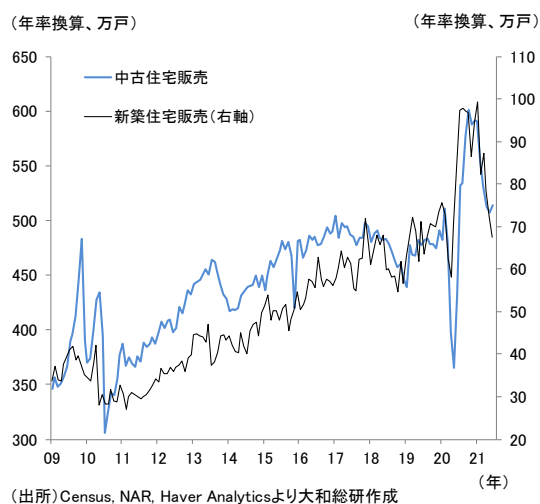


(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

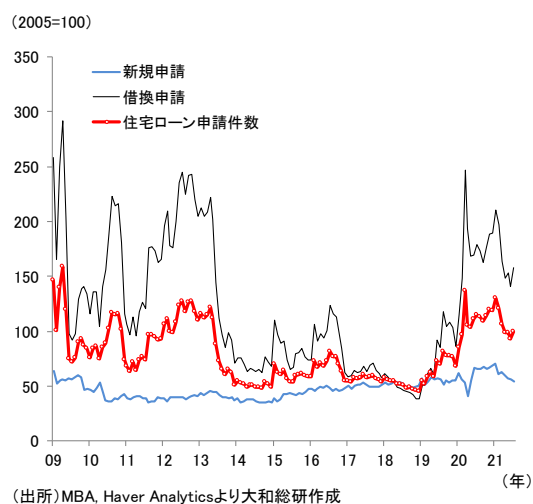
## 住宅市場

- ◆ 6月の新築住宅着工件数（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比6.3%増の年率換算164.3万戸となった。住宅の在庫不足が続いている中、人口流入の多い南部や西部での着工が加速し、2ヵ月連続で増加した。
- ◆ 6月の中古住宅販売件数（一戸建て）は、前月比1.4%増の年率換算514.0万戸であった。在庫不足で住宅価格が高騰しているものの、6ヵ月ぶりに増加に転じた。
- ◆ 6月の新築住宅販売件数（一戸建て）は、前月比6.6%減の年率換算67.6万戸となった。木材価格の急騰などによる住宅価格の上昇で需要が抑制され、3ヵ月連続で減少し、2020年4月以来の低水準となった。
- ◆ 5月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から1.8%上昇した。住宅需給のひっ迫が住宅価格を押し上げ、伸びが加速している。

### 住宅販売（一戸建て）



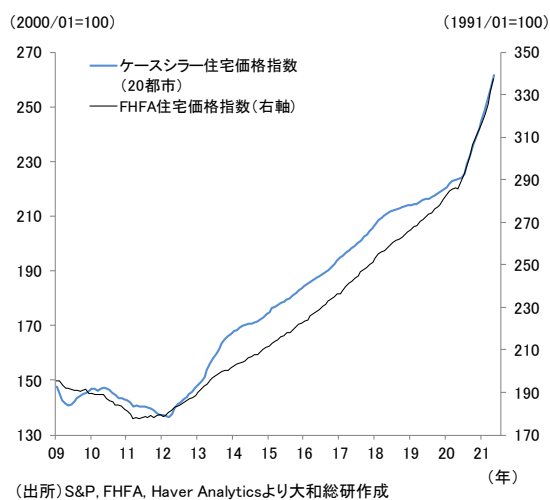
### 住宅ローン申請件数



### 住宅着工と建設業者の景況感



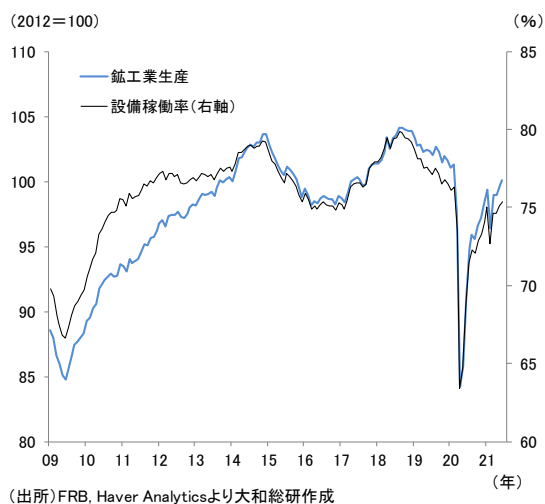
### 住宅価格



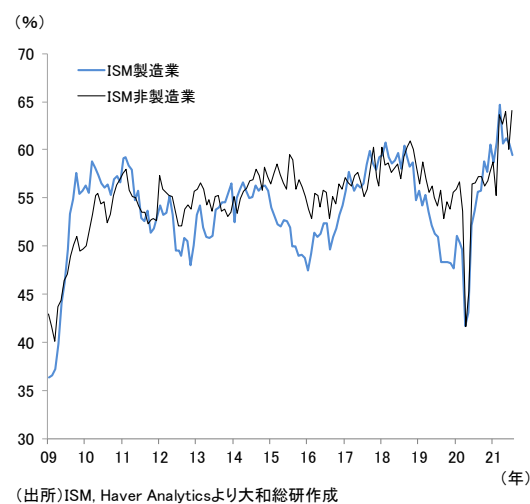
## 企業動向

- ◆ 6月の鉱工業生産指数は前月比0.4%上昇した。半導体不足による自動車・同部品の生産減が響き、生産指数全体の約75%を占める製造業（SICベース）が同0.1%低下したが、全国的な猛暑による冷房需要の増加で公益が上昇したほか、鉱業も上昇し、全体を押し上げた。
- ◆ 6月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比0.7%増となった。資材や労働力不足が懸念されるものの、経済回復に伴う製造業の堅調さが持続し、4ヵ月連続で増加した。
- ◆ 7月のISM製造業指数は前月から1.1%pt低下の59.5%となった。経済の再開に伴い需要は高水準である一方、原材料や労働者不足が影響し、2ヵ月連続で低下した。非製造業指数は前月から4.0%pt上昇の64.1%となった。消費がモノからサービスセクターへとシフトする中、5ヵ月連続で60%超の高水準となり、統計開始以降最高水準を記録した。

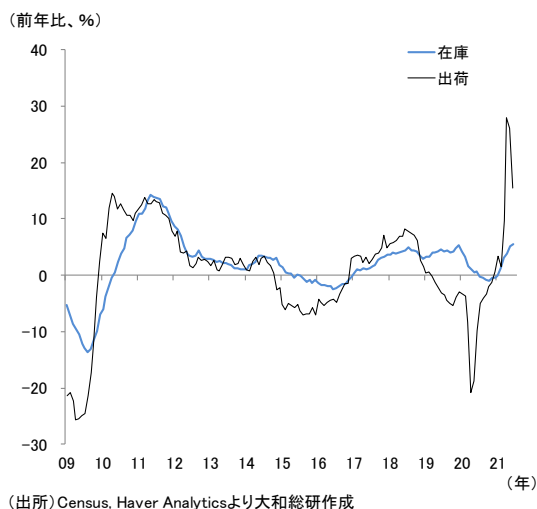
### 鉱工業生産と設備稼働率



### 企業の景況感



### 製造業の出荷・在庫



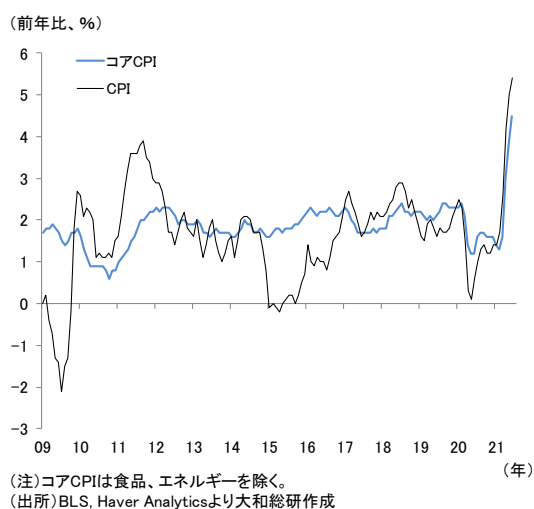
### 耐久財受注



## 物価動向

- ◆ 6月のCPI（消費者物価指数）は前年比5.4%上昇した。経済の回復に伴い、航空運賃などの旅行関連や、自動車の需給のひっ迫が物価上昇圧力となり、5ヵ月連続で伸びが加速し、2008年8月以来の高い伸びとなった。コアCPIは同4.5%上昇し、1991年11月以来の高い伸びを記録した。
- ◆ 7月の2年先期待インフレ率は1.72%となり、4ヵ月連続で前月から上昇し、2019年5月以来の高水準となった。5年先期待インフレ率は1.54%で、6ヵ月連続で前月から上昇し、2020年1月以来の高水準となった。
- ◆ 7月末のWTI原油先物価格は73.95ドル/バレルとなり、6月末の73.47ドル/バレルから小幅に上昇した。OPECプラスが8月からの協調減産の段階的縮小で合意に至ったものの、原油在庫の減少などから、月末値は4ヵ月連続で上昇した。

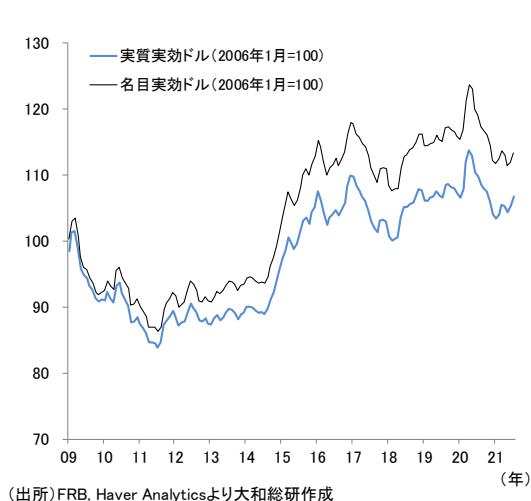
### 消費者物価指数



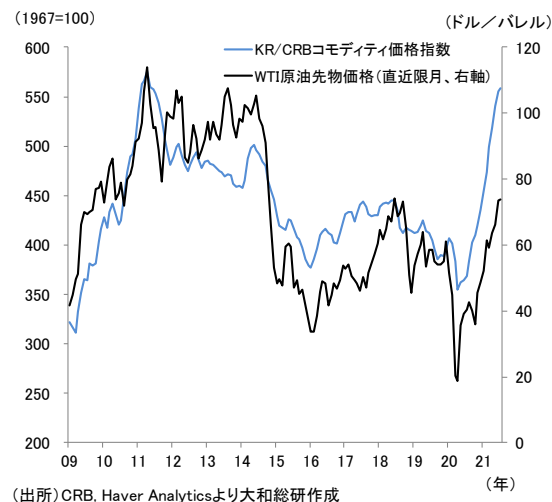
### 期待インフレ率



### 実効為替レート(ブロード)



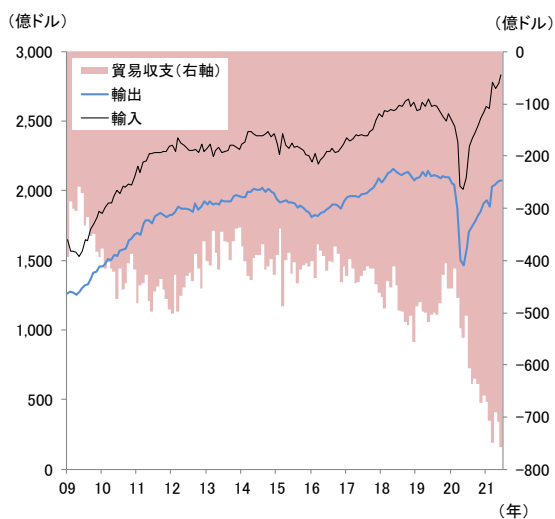
### コモディティ価格



## 輸出入・経常収支

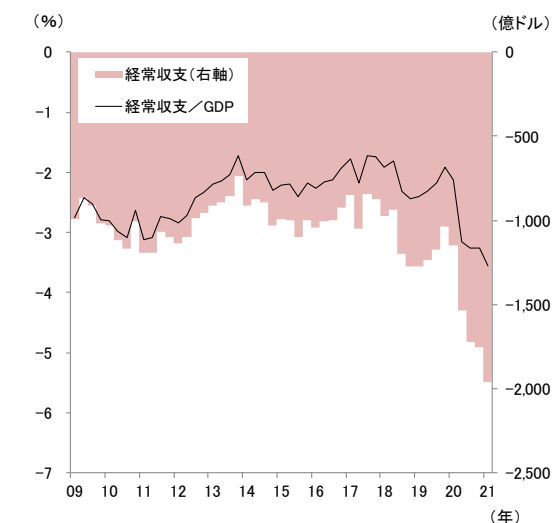
- ◆ 6月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比0.6%増加し、輸入も同2.1%増加した。この結果、貿易赤字は同6.7%増の757億ドルとなり、2ヵ月連続で拡大した。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では原油などの工業製品・原料が主に増加し、輸入においては非貨幣用金といった工業製品・原料の増加が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、中国向けの輸出が前年比31.0%と15ヵ月連続で増加した。また、日本向けは同35.2%増、欧州向けも同36.7%増と、いずれも3ヵ月連続で二桁台の大幅増となった。輸入は、中国からの輸入が同6.5%増、欧州からは同38.1%増、日本からの輸入も同71.0%増となった。欧州と日本に関しては、3ヵ月連続で二桁の伸びとなった。

### 貿易収支動向



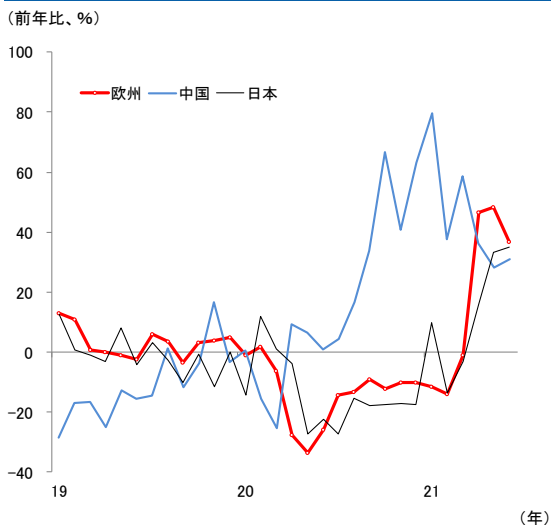
（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

### 経常収支の推移



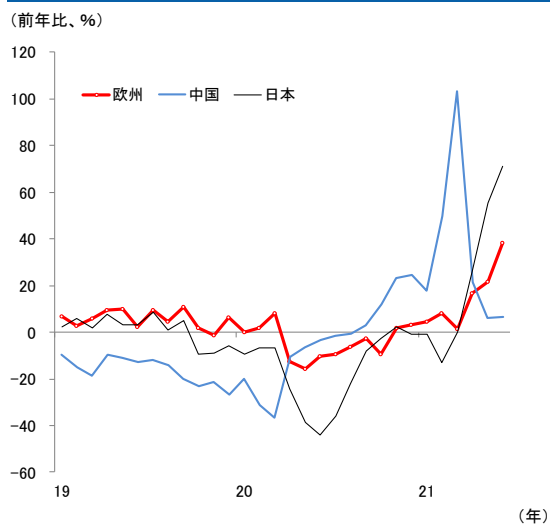
（出所）BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

### 国・地域別輸出動向



（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

### 国・地域別輸入動向

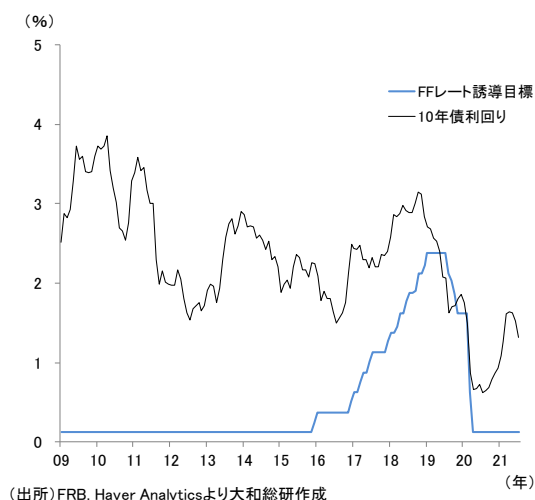


（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

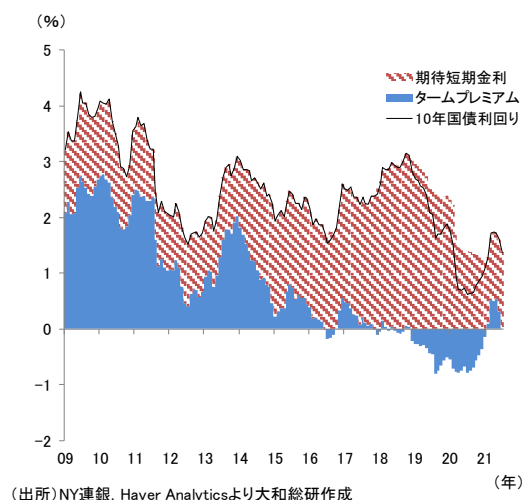
## 金融・財政

- ◆ 7月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジが0.00-0.25%で据え置かれ、国債などの購入規模を変更しないことが決定された。また、量的緩和の段階的縮小の実施に向けた議論の開始が宣言された<sup>2</sup>。8月4日の週のFRBの資産残高は平均で約8兆2,800億ドルであった。
- ◆ 7月の長期金利（10年債利回り）の月中平均値は1.32%となった。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大による景気回復の遅れが意識されたことや、インフレ懸念の緩和などから、3ヵ月連続で低下し、2021年2月以来の低水準となった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は赤字幅が高水準で推移しているが、3ヵ月連続で縮小した。

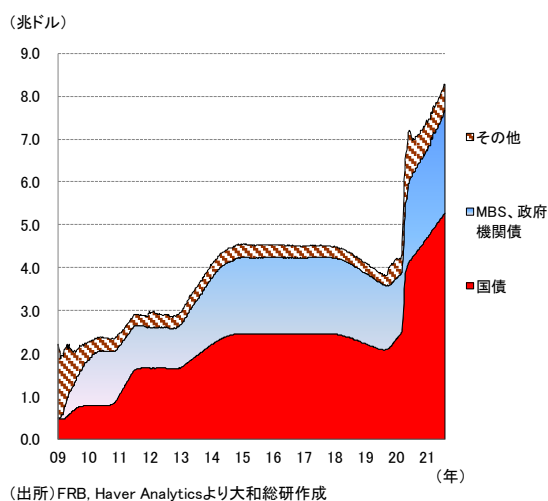
### 政策金利・長期金利



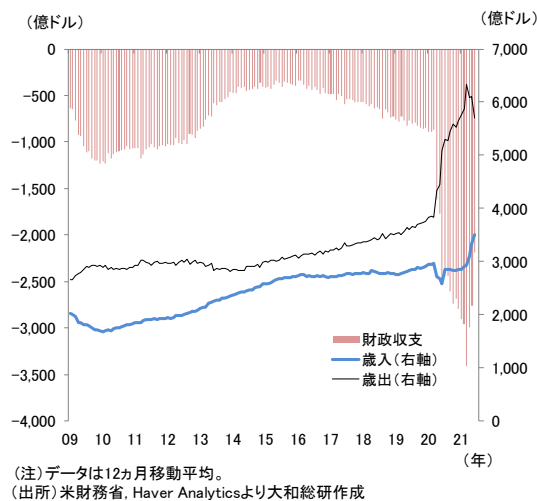
### タームプレミアム(10年)



### FRBの資産構成



### 連邦政府の財政収支



<sup>2</sup> 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「FOMC テーパリング議論の開始を宣言」(2021年7月29日)参照。[https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210729\\_022431.html](https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210729_022431.html)